

巻頭言	いま、同窓会も改革のとき 夢をもつ	千葉商科大学同窓会長 千葉商科大学教育後援会長	高橋 伸治 安光 利文	4 5
理事長より	理事長再任のご挨拶	学校法人千葉学園理事長	内田 茂男	6
特集 1	千葉商科大学の教学改革 ―現代の「治道家」を育成する―	千葉商科大学学長	原科 幸彦	9
特集 2	千葉商科大学総合研究センターへの期待と 皆さまへのお願い	千葉商科大学副学長 基盤教育機構長 総合研究センター長	寺野 隆雄	18
学園より	これからの学食 ―変化と進化―	総務部施設環境課 課長補佐	前田 豊	22
ゼミ紹介	科学的プログラミング	政策情報学部教授	大矢野 潤	26
学生活動紹介	体育会 アーチェリー部	商経学部経済学科3年	眞地 康輔	27
	文化団体連合会 裏千家茶道部 オープンキャンパススタッフ	商経学部経営学科4年 商経学部商学科4年	村田 幸隆 渡邊 唯花	28 29
CUCレポート	■ ニュース・イベント 名誉教授称号記授与式を挙行／ほか	国際センターニュース	安藤 崇	30
	■ 「国際化」の近道としての英会話チャット ―Squareの活用で英会話能力を伸ばす―	商経学部准教授	川瀬 功	34
	■ キャリア支援センターニュース 就活の本質を追求し、新就活スタイルを生み出そう	キャリア支援センター長	37	

	地域連携推進センターニュース		
	CUCキッズ大学2023サマースクールの開催／ほか		40
	The University DININGレポート		
	UDLIVEを開催しました／ほか		44
	ライブラリーニュース		
	第8回書評コンテスト課題図書展示／ほか		46
	文化団体連合会・体育会所属各部の活動近況		48
	ご寄付のお願い		50
教育後援会活動	教育後援会報告／ほか		52
活躍する卒業生	走馬灯のごとし 青春時代	学校法人足立学園理事長 初鹿野 恵太郎	58
	■ 本部からの報告	広報・IT委員会	61
	■ 支部からの報告		61
	■ 同期会からの報告		70
	■ OBからの報告		72
同窓会活動	■ 同窓生寄稿		
	学徒出陣80周年 渡辺 崇先輩へ	体育会OB会副会長・卓球部OB会長 同窓会理事	75
	同窓生のお宿・お店紹介「海辺の小さなお宿 まるい民宿」	平成17年政策情報学部卒 平成19年大学院修了	77
CUC経営者会議	CUC経営者会議ニュース		
	2023年度総会を開催／新規会員について／ほか		78
随筆	「撮り鉄」の穴場 市川 駿	香川県支部	85
	オンラインから対面へ	サービス創造学部教授	86
著書紹介	「ケースブックSDGs経営―企業構成員を動機づける仕組み」	商経学部准教授	88
	著者：安藤 崇		
	▼第53期同窓会維持会費等納入者一覧 89		
	▼同窓会役員および支部事務局一覧 90		
	▼編集後記 92		

いま、同窓会も改革のとき

高橋 伸治

● 千葉商科大学同窓会長
(昭和52商)



消えることのない新型コロナウイルス感染症の影響がさまざまな分野に影響を与えています。社会は大きく二つに分かれ、慎重派の動きはまだまだ遅く、積極派の人たちとの間には大きな開きを感じています。パンデミック前に戻そうと思う勢力と、パンデミックを教訓として新しい仕組みを実現させた勢力とでは考え方が全然違います。その中で、これからの日本は劇的な変化が次から次へと起こる社会になることは間違いないでしょう。母校、千葉商科大学も時代の流れを的確につかみ、大きく変わろうとしています。そして、リモートワークの推進は働くという概念を大きく変えています。今では「無理しないで有意義に働く」が考え方の中心になっています。生成AIは、その動きを大きく後押しします。

また、少子化時代に突入した日本の人口は1億人を割ることは確実と言われております。戦後復興から日本が求め続けた低賃金で働く労働者。地方の出稼ぎ労働者、女性、高齢者、外国人労働者は今までの考え方で集めることもできません。日本全体の経済的な魅力は残念ながら、薄れていると思います。いつの間にか、先進国の中で労働者の賃金は最低水準になってしまいました。これからの企業経営では継続的な賃金上昇を計画に盛り

込む必要に迫られています。貧しくなった日本で大きな目標を設定することが大切だと考えています。

私たち同窓会の理念は「会員相互の交流と親睦を図り、組織および会員の発展・充実ならびに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」であります。時代の変化に対して、私たち同窓会は改革のときを迎えています。人生のライフスタイルが大きく変わり、生涯現役時代に対応した組織にしなければなりません。生涯現役時代は、すべての同窓生が集い、「高いコミュニケーション能力を養う場所」にしなければなりません。専門分野で高い能力をもっているだけでなく、人とうまく交流する力をもつことで、どんな場所でも自分のやりたいことを実現できる人材を後押ししたいと思います。

千葉商科大学も大きな一歩を踏み出しました。私たち同窓会も大改革を実現し、大学当局、大学の先生たちとの心の距離を縮めて大きく行動を起こすときです。そのための縦、横、斜めのコミュニケーションが必要です。相手を大切にするからこそ、人に恵まれます。三者の距離が縮まったときにはじめて、最高の学園環境ができると思います。



千葉商科大学
同窓会
公式Webサイト
二次元コード

走馬灯のごとし 青春時代

初鹿野 恵太郎

学校法人足立学園理事長
元足立成和信用金庫理事
昭和45年商経学部経済学科卒業

私は昭和41年3月、今何かと人気の高い街、北千住（東京都足立区千住）にある足立高等学校（現足立学園中学校・高等学校）を卒業しました。高校時代の厳しい校則から解放され、明るい未来が開けて大人になったような高揚感でいっぱいでした。学校は北千住駅から徒歩1分の商店街の中にあり、街全体が活気に溢れていました。校庭が狭かったので、体育の授業は近くの荒川河川敷で行われていました。よく晴れた日には土手の上から筑波

山が見えたものです。対岸には東京拘置所があり、体育の教師が授業のとき、刑務所を眺めながら「絶対に悪いことはするなよ。あそこにお世話になったらお終りだぞ」と耳にタコができるほど聞かされたものでした。その教師の仇名が「刑務所」。今思えばその先生には失礼なことをしたと思っています。体育の授業のたびに耳にタコができるほど聞かされたからこそ、この歳まで身に沁みて悪いことはしないで来られたのだと思ひ、先生には



深く感謝しています。

昭和41年4月、私は高校の担任の先生の勧めに従い、千葉商科大学に入学しました。ここもすぐ近くに江戸川が流れています。川幅は荒川よりも広く、流域もきれいで、釣りをする人やボートを楽しんでいる人もいて、どこかで豊かな雰囲気を感じられました。大学は国府台という名が示すとおり、高台にあり、緑豊かな環境に恵まれた場所でありました。私が大学に入学するのと同じ時期に私の出身校、足立高校の村田純一校長先生が千葉商科大学に英語の先生として迎えられておいでになったのには驚きました。私は母校の校長先生が、自分が入学した大学の先生としていらしていただいたことに安心感と喜びを抱いたことを覚えています。また、後に知ったことですが、私が在学していた時期に大学の事務局長を務めていらつしやったのは、私の高校の先輩である東条吉彦氏でした。千葉商科大学と足立学園の不思議な縁感ぜずにはいられません。その当時、足立高校には普通科と商業科がありましたが、商業教育に力を注いでいて、毎年20名程が千葉商科大学に入学していました。

入学後、私は先輩の勧めで柔道部に入り、毎日厳しい

練習が続ききました。道場のみならず、屋外の練習も苛烈を極めました。大学の近くにある弘法寺の石段でのランニングや腕だけの石段登りなどの辛さは、今でも忘れません。厳しい練習の束の間の楽しみは、愛車の原付「スーパーカブ」を走らせることでした。3年生の夏合宿を岩手県宮古市で行ったとき、私だけ他の部員と別行動で愛用のカブを駆って埼玉県の自宅から宮古市の宿舎まで往復約100kmの道のりを柔道の練習で疲れた体に鞭打って無事踏破したことは青春の一コマとして今でも鮮明に覚えています。

苦しくも楽しかった学生生活も終わりに近づき、就職に向け、就職相談室で情報収集を行いました。千葉商科大学付属高校で教育実習を行っていたこともあり、高校の商業科の教員と金融関係との二方向に興味があったのですが、ある教授からの一言で私の将来は決定しました。その教授はこう言いました。「人生で一番大切なのは、お金だよ。お金は人間の体で言えば血液だ。血液が体を巡って生命を維持しているようにお金が世の中を巡って経済活動が成り立っているんだ。」そこで、私は金融関係の仕事に就こうと決心しました。出身高校が足立高校

だったので、求人資料の中から「足立」という名称が目に入り、足立信用金庫（現足立成和信用金庫）に入庫しようと思いましたが。金融機関と言っても、銀行は株式会社で大企業を含む全国規模の取引により株主の利益を優先する一方、信用金庫は営業が地域限定で非営利の協同組織であり、地域の繁栄を図る相互扶助を目的として地域社会に貢献するというところに私は働き甲斐を見出したのです。私は希望通り足立信用金庫に入庫することができました。

信金時代、さまざまな部門を経験し、辛い思いも数えきれないほどしました。しかし、大学の柔道部での厳しい試練を耐え抜いたことが私の大きな心の支えとなりました。

信金理事長時代には東京都の信用金庫協会からの依頼で第一回業界主催の寄付講座「信用金庫の金融」を千葉商科大学にて開催しました。受講者は数百名と成功裡に終わったことも懐かしく思い返されます。

思えば、大学4年生の就職活動時期に金融関係が高校の教員かで迷った自分でしたが、足立信用金庫に入庫して理事長まで勤め上げ、その後、縁があって現在、母校足

立学園の理事長を務める身となっています。足立学園は中高一貫の男子校として「生徒第一主義」を貫きながら地域の一員として地域貢献に励んでいます。

青春時代に二者択一で悩んだ道を奇しくも六十年代後半に二つながら叶えることができたわけですが、齢七十半ばに達し、走馬灯のように駆け巡る青春時代を懐かしんでおります。

最後に、千葉商科大学ならびに大学同窓会の更なる発展と益々の御隆盛を御祈念申し上げます。